



新入板

伴勢物語

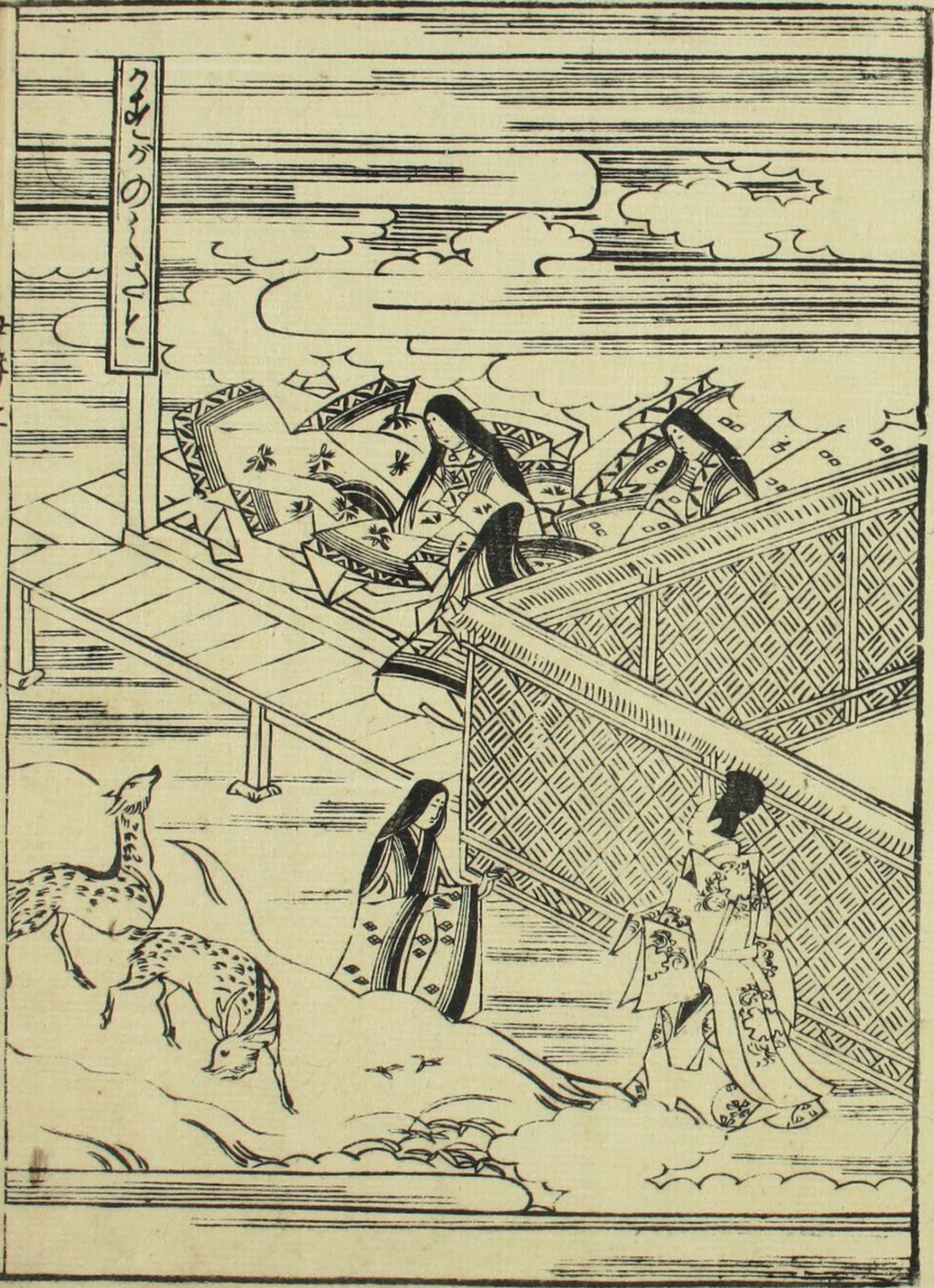
契



源融寛平七年八月薨七十三於在中將非實先達如何
 とたがみんしむる

三
 暮る。あかりをたぐりて。ほのかに。花のうららかに。あかしの。
 うららかに。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。
 うららかに。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。
 うららかに。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。
 うららかに。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。
 初月。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。

三
 夕のあかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。
 二条の。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。
 あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。あかしの。



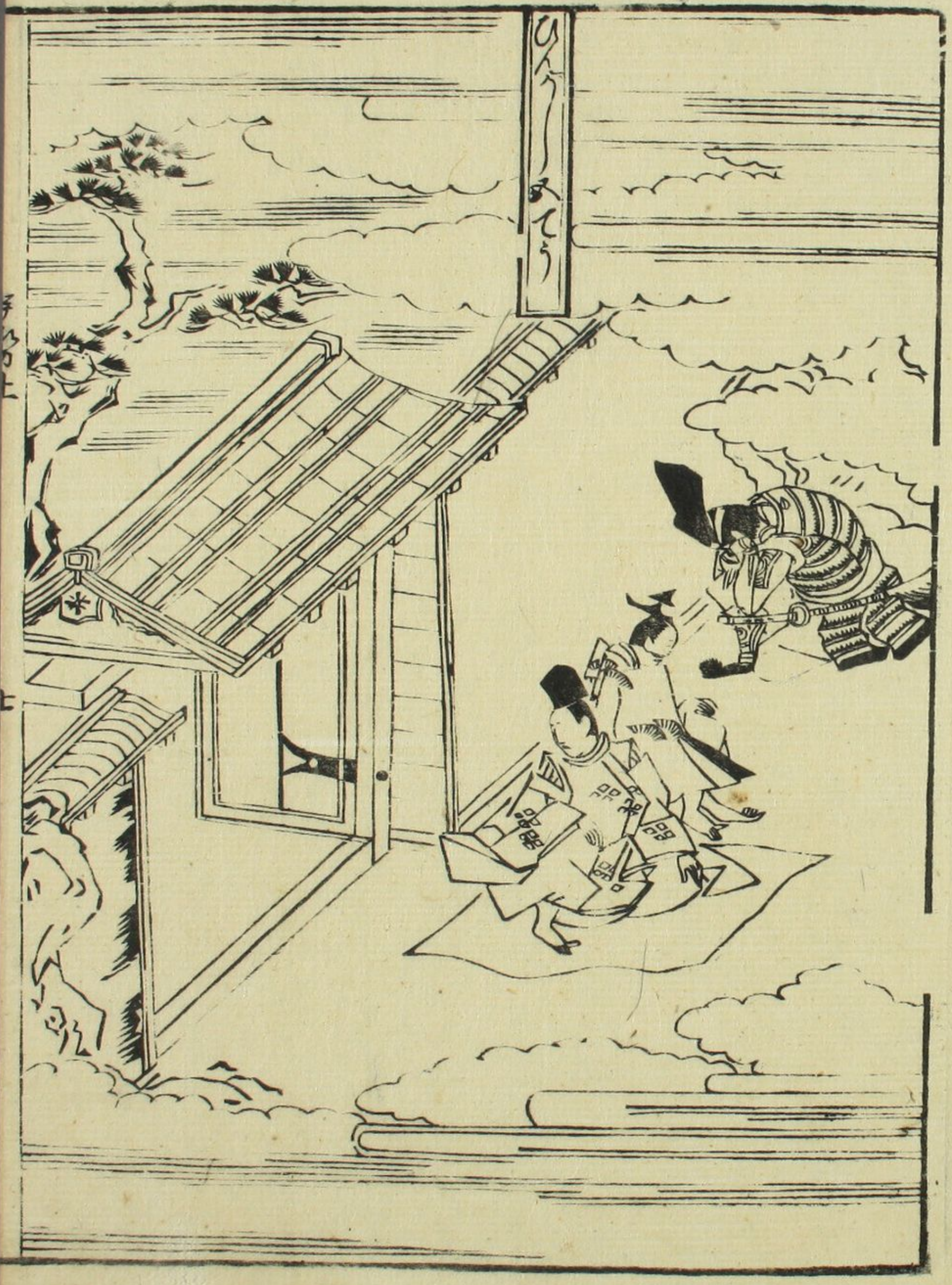
あかしの

五首 霧のさへひかりのこゝろは けしきもはなれぬ
 ろりこそすなはれけさのくにのさきとよきとよき
 こゝろもさきとよきとよきとよきとよきとよき
 おもひもさきとよきとよきとよきとよきとよき
 そのくにさきとよきとよきとよきとよきとよき
 さきとよきとよきとよきとよきとよきとよき
 たゞこれぬきぬきとよきとよきとよきとよきとよき
 とよきとよきとよきとよきとよきとよきとよき
 二条の后よきとよきとよきとよきとよきとよき
 さきとよきとよきとよきとよきとよきとよき
 さきとよきとよきとよきとよきとよきとよき
 さきとよきとよきとよきとよきとよきとよき



東五条

此のついでに...
 ろとよまや...
 古今...
 ありなれ...
 今...
 物んが...
 此れが...
 動古今...
 箱...
 時...



くやいしん

とありたりしむす母にぞしむくがたれはなり
ある男はじこ此國までいかりなりとてしるす國に

ある女はよまじひなりとて今もあせんとてひまを
母やん何とあつらんよなづあつらん女は成人して母を

び敬ふありたりしとせんあつらん人すも母ひくは
母はくはよまじひをせしむくけつとてむすをんこ

なりありたりしとてのまなりなり
とてはのむすむすもひんあつらんかよとて

じこくむす
まががしよいらあつらんはのむすむすのむすむす

とたん人のあつてもむすむすをんむすむすなり

首男あつらんむすむすに女をくらせたりよりひまにせむ
^{拾遺}まつなむすむす井にたりあつらんまづのむすむす

首もともあつらん人のむすむすむすむすむすむす
むすむす人なりたり國のむすむすあつらんむすむす

むすむすの中はむすむすむすむすむすむすむす
むすむす人あつらんむすむすむすむすむすむす

古くむすむすむすむすむすむすむすむすむす
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむす

首むすむすむすむすむすむすむすむすむす
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむす

なこむすむすのむすむすむすむすむすむすむす

昔みらの國々を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
わが世に治むる者ありて人の命を治むる者ありて
女たりとも治むる者ありて人の命を治むる者ありて
ひつし治むる者ありて人の命を治むる者ありて
清和治むる者ありて人の命を治むる者ありて
ものり人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
つたり人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
われも治むる者ありて人の命を治むる者ありて
しつりわびを治むる者ありて人の命を治むる者ありて
わたりを治むる者ありて人の命を治むる者ありて
治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて

く治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
つり治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
と治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
を治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
か治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
年治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
う治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
を治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
より治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて
年比治むる者ありて人の命を治むる者ありて人の命を治むる者ありて

古今
何なるかとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり

を

月々あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり

あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり
あはれあはれとあふらうそこれ様花にしよ希なる人も約なり



とありてはなむし

右今 あま 天をり。いそよはたにたのいそよの風をみ

かきあひつるさかあはるいそよのき

三 あま 天をり。いそよはたにたのいそよの風をみ

かきあひつるさかあはるいそよのき

とありてはなむし

とありてはなむし

とありてはなむし

とありてはなむし

とありてはなむし

とありてはなむし

とありてはなむし



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and occupies the main body of the page.

五

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise. The text is written in a cursive style and occupies the main body of the page.

六

Handwritten marginal note on the left side of the page.

Handwritten marginal note on the left side of the page.

Handwritten marginal note on the left side of the page.



ね

船の裏方らへ後一載り舟をりかへては船中までともやうな
 つゆへよりとあられよくなんがよひたり

三十一

おそびまうとおとせりは成よなれが男も女もどちぢりぢり
 て何りなれだ男はあめ女はさう。えめと思ふ女もぢり男を
 と思ひつ。れやれあめはさうもさうもさうもさうもさうもさうも
 こつとれりのおとせりといふらうくなん

おとせり
 江戸井筒あつたけすまらめさすれはらじあつた
 ね

くさああり分がたもくさあねえなうはしてはあつた
 ねどひくさあけあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

FIG. 111

信長 一七

かどそくくわかみよはあよりん水のけいしん娘にまの

貞觀十二年二月貞明親王為皇太子十時高子為女即依春宮清母号
去年十二月廿六日誕生高子年廿七

九七

青ま交の女清のちの形光の雲よめありまけり
新古今 娘よわねまけいけいれいしんまをいひ

十三

しおこしんがけりきつる女は
後 娘よわねまけいけいれいしんまをいひ

一七

まろよまよみあはしつる女は
しあさけんは男

三九

とよまをたけいけいれいしんまをいひ
とよまをたけいけいれいしんまをいひ

三九

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

古今
玉作 けいれいしんまをいひ

三九

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

四九

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

五九

とよまをたけいけいれいしんまをいひ

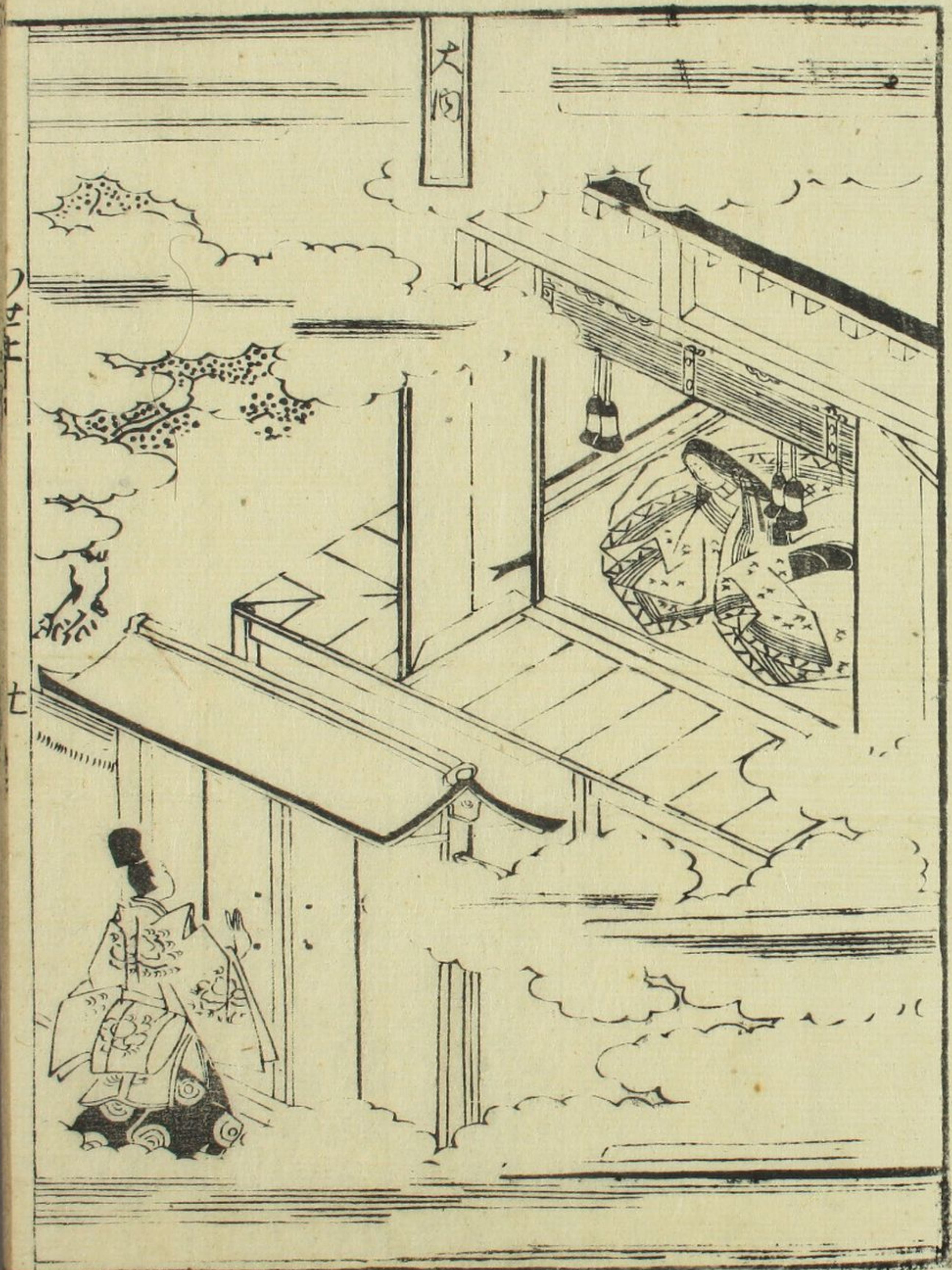
五九

十九

ひらきとてしるすはるるのこころを
 ちかみしるすはるるのこころを
 ひらきとてしるすはるるのこころを
 ちかみしるすはるるのこころを

あはれとてしるすはるるのこころを
 ちかみしるすはるるのこころを
 あはれとてしるすはるるのこころを
 ちかみしるすはるるのこころを

あはれとてしるすはるるのこころを
 ちかみしるすはるるのこころを
 あはれとてしるすはるるのこころを
 ちかみしるすはるるのこころを



利。黄たうらびわづらよの馬かへふまかりし

は様

の。黄たうらびわづらよの秋風とくわりの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

五十四

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

五十四

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの。黄たうらびわづらよの

むし。男。り。う。ち。の。び。と。お。う。け。な。り。の。歌。を。か。た。な。り。て
う。ら。ま。う。と。祢。よ。げ。よ。み。あ。ら。み。あ。ま。の。歌。う。た。へ。と。歌。を。あ。ま。よ
と。ま。い。こ。え。な。り。あ。う。

袖。ま。は。る。と。め。り。し。い。ま。い。の。ま。さ。か。う。な。く。お。ま。あ。り。き。ま。い
ひ。い。男。が。あ。ら。り。う。ら。ま。う。と。う。ら。ま。う。と。う。ら。ま。う。と。
あ。ら。り。子。と。あ。ら。つ。い。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。
と。り。り。り。り。り。り。

朝。暮。の。海。の。こ。り。て。ま。ま。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。
又。お。し。と。こ。

吹。風。よ。あ。ぞ。乃。梯。か。ら。う。び。も。あ。れ。あ。の。こ。う。の。人。が。あ。ら。う。と。
又。女。あ。ら。う。

吉。と。者。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。
あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。

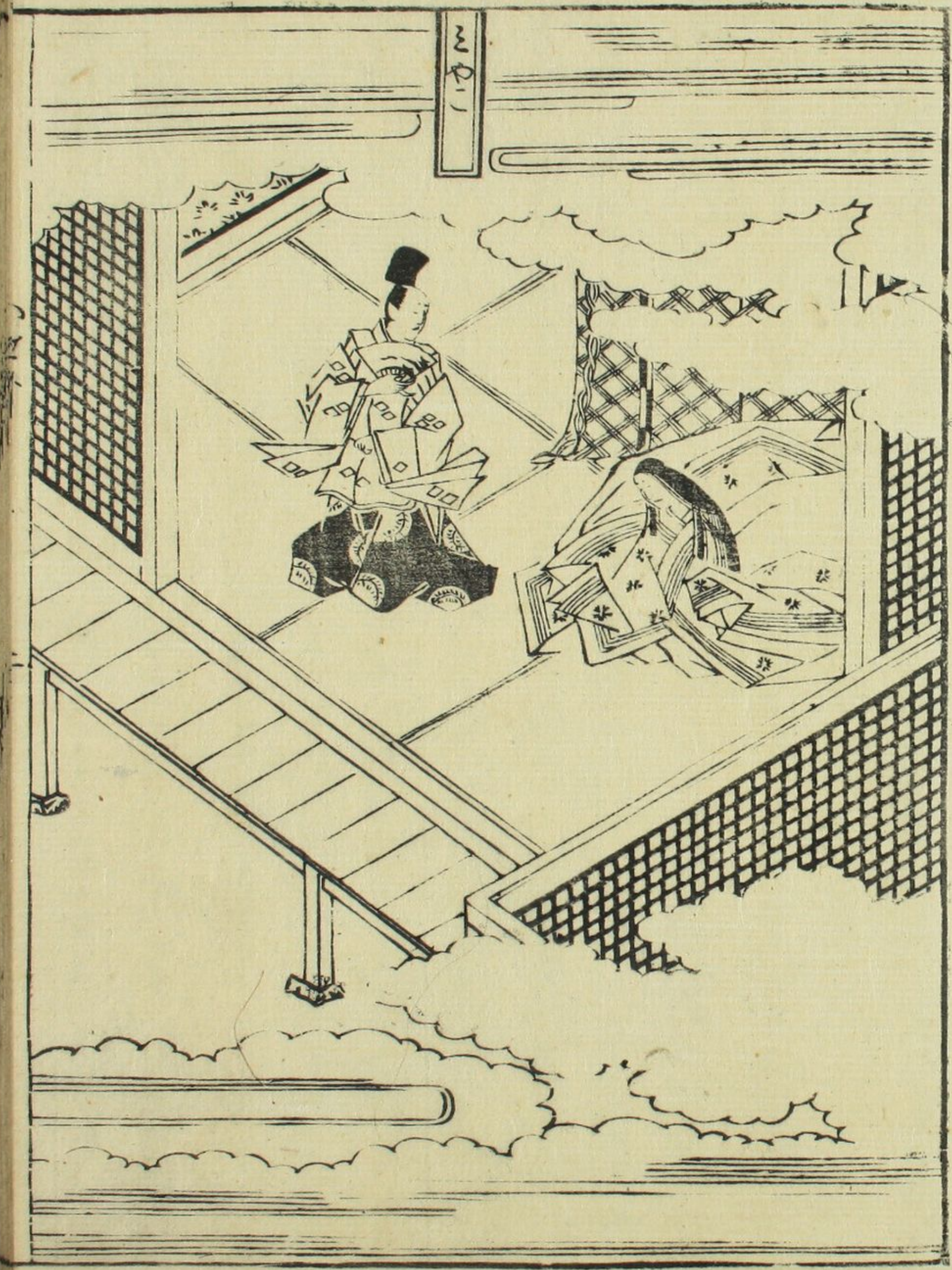
三十九

又行と

あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに
わびとていふにいらる。男女の世にありはしとていふにさうやうに
あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに

あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに
あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに
あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに
あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに

あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに
あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに
あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに
あまのこころのちかやうにさうやうにさうやうにさうやうにさうやうに



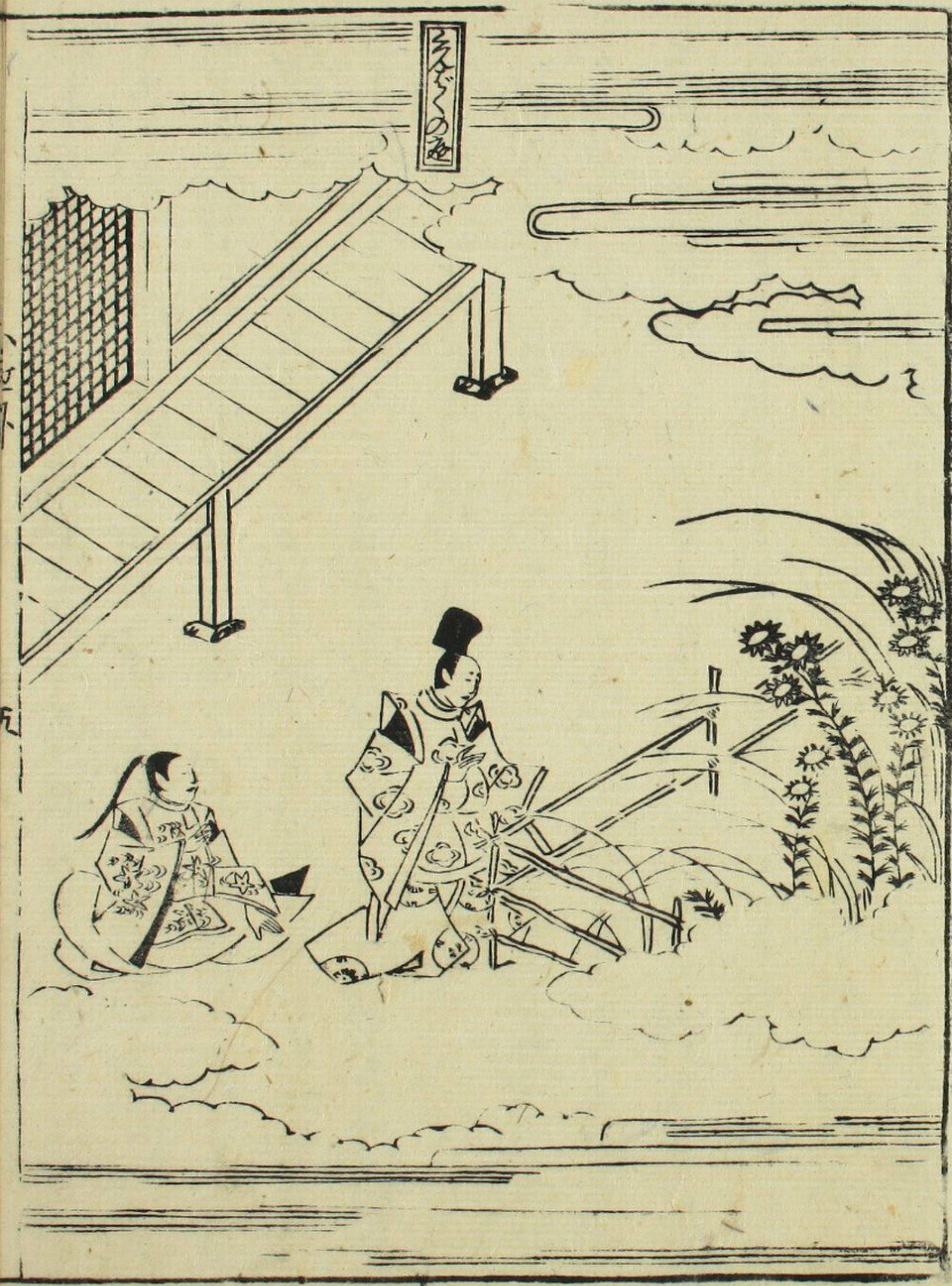
乃官人のめそをなんあつとせんとく女あつとよつとく
 せよちんはあのはしにひきまがかりしけとてあつと
 かつよせうれいもくつたちちたよつとく
 古しと作者
 五月まづ花もちあつとけがけの首の人を神の書そ
 とひひつとよそあひもくあつとよせうれいもく
 首あつとくしけくもくもくもくもくもくもくもくもく
 いふまじらふものとせうれいのうちなる人のひつとよせ
 拾送
 せあはれいもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 女あつとく
 乃ほはらうれいもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 青年、うらもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 なる人のひつとよせうれいの國なりなる人よつとくもくもく

乃官人のめそをなんあつとせんとく女あつとよつとく
 せよちんはあのはしにひきまがかりしけとてあつと
 かつよせうれいもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 古しと作者
 五月まづ花もちあつとけがけの首の人を神の書そ
 とひひつとよそあひもくあつとよせうれいもく
 首あつとくしけくもくもくもくもくもくもくもくもく
 いふまじらふものとせうれいのうちなる人のひつとよせ
 拾送
 せあはれいもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 女あつとく
 乃ほはらうれいもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 青年、うらもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 なる人のひつとよせうれいの國なりなる人よつとくもくもく

第九十五

見し人のおはすまはしむるにせしむるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。
さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。さるるに。

EDX



とたのしうくつあつて。都らあううてぞ。あはうへひけ
れう。れだび女らうに。あひあまかう。それよぞ。あはうに
あはひと。あひあう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。

あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。

清和天皇雅鳥天之性。漢稱。娛未嘗。由意。風次。其正。臨。故。神。降。

あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。

あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。
あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。あはう。



舟男もなかりその男伊勢が國よりまのほよきさくら
 よかの伊勢に被まゝりける人のおやほひ乃はよりほひ
 よいさしれともひやまりなれば親のゆかりけきと
 ぼろよきなりありあたよふおもひにせしめやむゆ
 むかひつらつそいよむせたりかくし秘ん路よき
 りこ日とくお男をたれおつとく女もまじりあ
 とぬおしつらつれ人めあけよまだえありつら
 おつ人おれをさしこもやとさる女も秘やも
 女人もあはれて秘ひつらつりに男もつらつ
 りも男もつらつ秘ひつらつりなればのこ
 よ月乃お即ろつらつにちいさなまうつらつ
 たくしお男もつらつとえらるてまうつらつ



古今

大宮の深き水に身を沈めしむるは
 とくしむるはしむるはしむるは

神代巻にあらはれりしは
 昔の事なりと云ふは

昔の事なりと云ふは
 昔の事なりと云ふは

昔の事なりと云ふは
 昔の事なりと云ふは

古今

昔の事なりと云ふは
 昔の事なりと云ふは

昔の事なりと云ふは
 昔の事なりと云ふは

古今

昔の事なりと云ふは
 昔の事なりと云ふは



見らにうれ遊物よりこもれりもさサ大じらさ大サグのちり
 若らおりてよまゝいふぬおまどほへらおらふおなんぬまら
 ぶら滝乃うこにまらうらう大まはらういれらる石あり
 その石れらふらういれらる水はせうかじらうれ大まはらま
 あらまおのそまらふ人れ遊のまあまもああらうの
 我をまらああらうまらひの因ら遊とらまたらうん
 あらういれまらうらういれ

ぬれ乱ふんそあらうら向あらうまらちらの神らせだれま
 とまありまられらあらの人まらまらまらまらまらまらまら
 だまらまらまららららららららららららららららららららら
 があらのあらうらふららららららららららららららららららら
 らららららららららららららららららららららららららららららら

初^{はつ} 勝子^{かちこ} 秋乃^{あきのの} 星乃^{ほしのの} 河邊乃^{かたのべの} 雲乃^{くも} 花^{はな} 任乃^{まかしの} の^の 所^{ところ} あり
 と^と 俵^{はた} 之^の 家^け 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 花^{はな} 乃^の 山^{やま} 乃^の 門^{かど} 乃^の 津^つ 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ}
 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ}
 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ}
 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ}
 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ}

井^い 乃^の 人^{ひと} の^の 所^{ところ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ}
 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ}

真 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ}

乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ} 乃^の 舟^{ふね} 乃^の 波^{なみ} 乃^の 海^{うみ}



若くはまをたけりていざさるるはきりて
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
たうらうらうらうらうらうらうらうら
ととととととととととととととととと

若くはまをたけりていざさるるはきりて

若くはまをたけりていざさるるはきりて
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
たうらうらうらうらうらうらうらうら
ととととととととととととととととと
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
たうらうらうらうらうらうらうらうら
ととととととととととととととととと

若くはまをたけりていざさるるはきりて
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
たうらうらうらうらうらうらうらうら
ととととととととととととととととと
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
たうらうらうらうらうらうらうらうら
ととととととととととととととととと

らるるはまをたけりていざさるるはきりて
らるるはまをたけりていざさるるはきりて
たうらうらうらうらうらうらうらうら
ととととととととととととととととと

乃、清しきかみより、
 流りなれど、たゞのりて

鳥のあやむる野へ、
 鳥のあやむる野へ

乃、たき勝、
 乃、たき勝

人の家よ、
 人の家よ

ちのこの、
 ちのこの

目のおじ、
 目のおじ

うまの、
 うまの

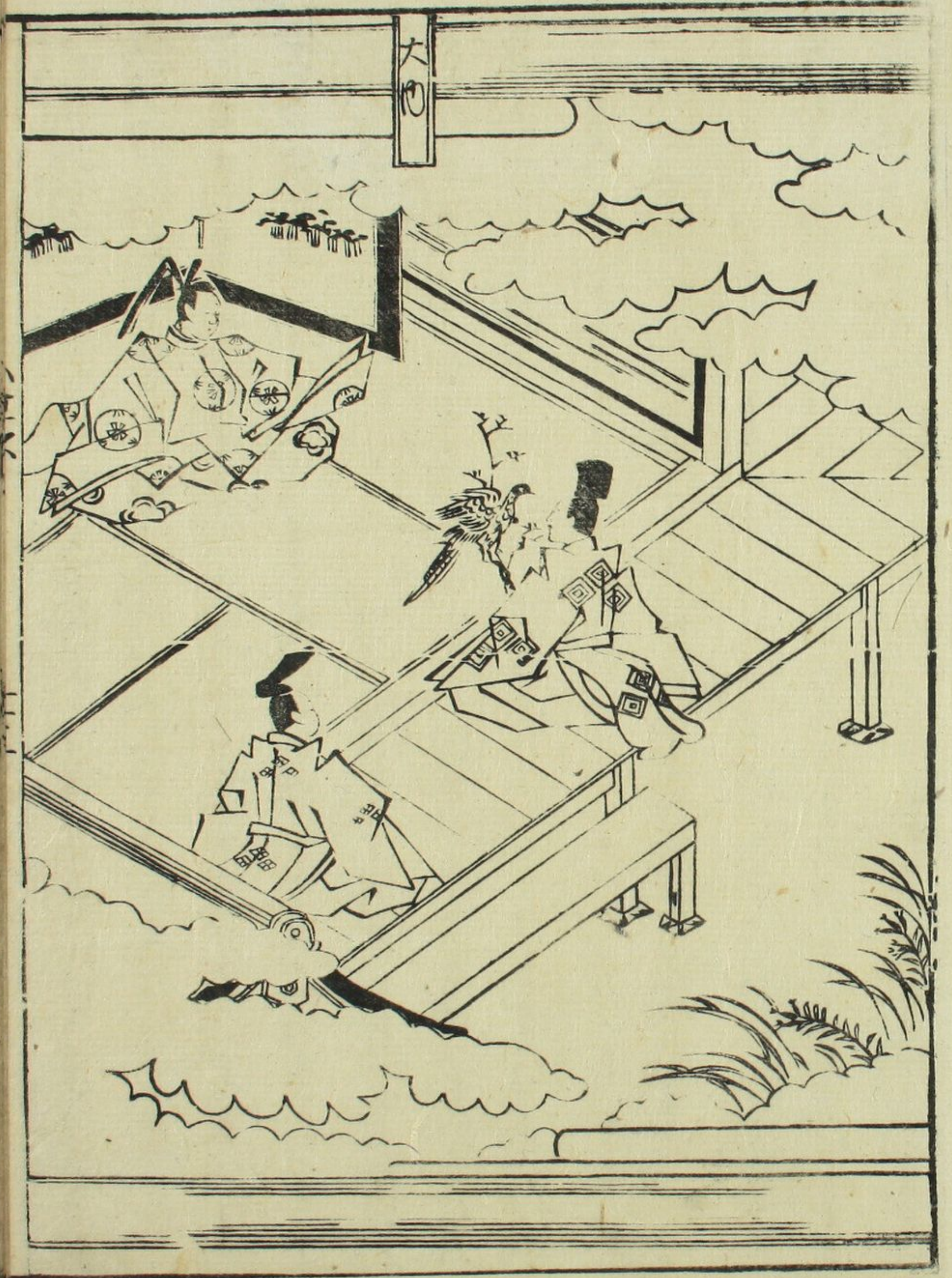
なすひ、
 なすひ

うまの、
 うまの

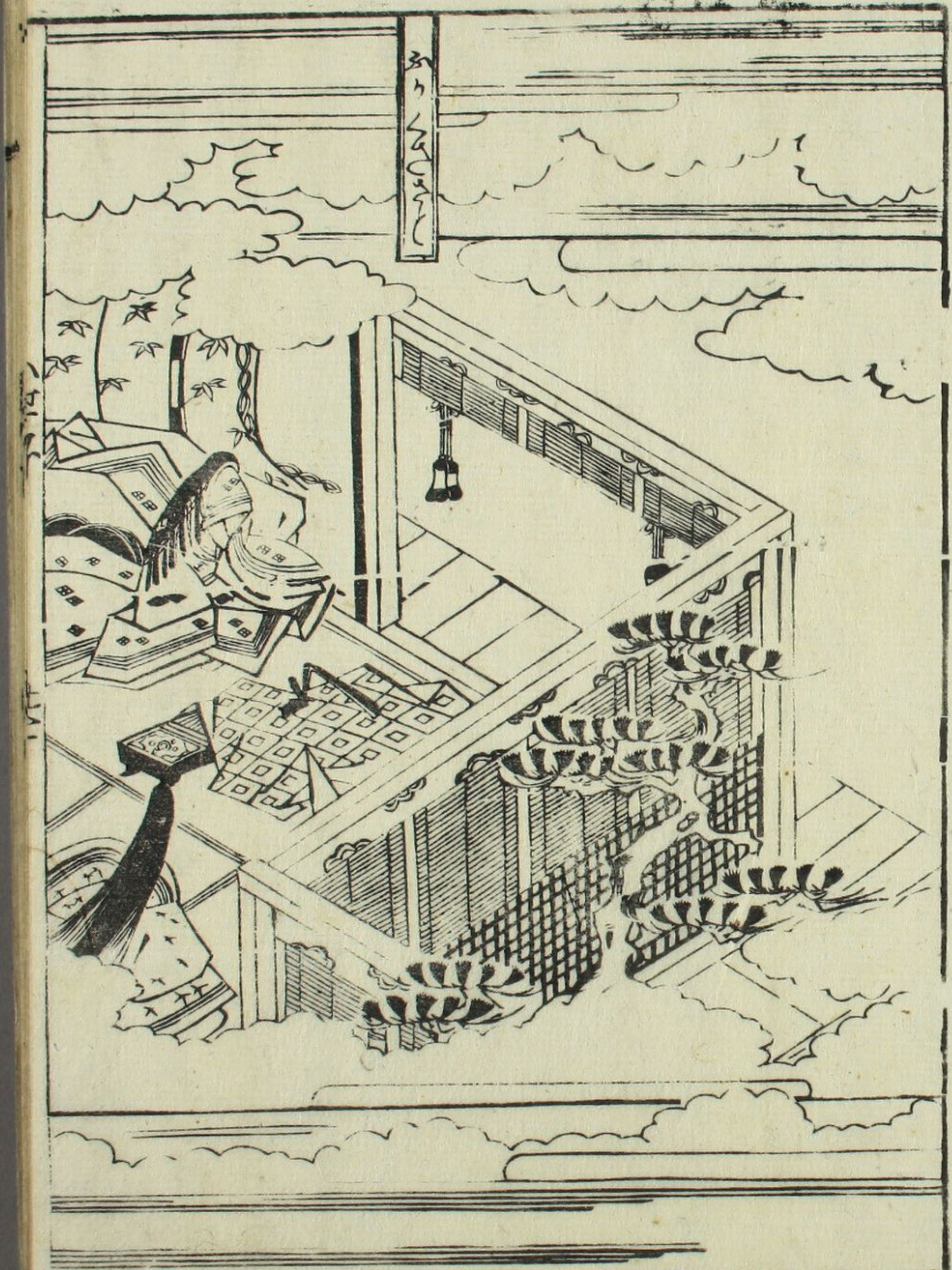
うまの、
 うまの

ちのこの、
 ちのこの

後、京、東、近、向、(、教、十、二、年、) 正、月、右、中、弁、一、持、光、中、弁、



首男がさきたらちろきうまじし給ふおにまうたご田川の
身内親上
 ちらちろの神代もあまご田川がくちまおひあむご給ふ
古今
 首阿くちまおの男もくちりその男たごあけり今田記あま
敏行冊名虎女
 くらぬあのとあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 きごままたりしくくちまおのりあまのりあまのりあまのり
 ちりくちまおのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 あまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 洗きくちまおのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 ちまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 今あまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり



わづらひぬれば後世に名を留めざらん
のちの世にありともしるべきに
かたはる世にありともしるべきに
とよまじし世にありともしるべきに
わづらひぬれば後世に名を留めざらん

わづらひぬれば後世に名を留めざらん

同様にありともしるべきに
とよまじし世にありともしるべきに

昔男女がとらふ人などあり
花より人よりあはれむ
昔男女がとらふ人などあり
花より人よりあはれむ

昔男女がとらふ人などあり

なまじし世にありともしるべきに

わづらひぬれば後世に名を留めざらん
のちの世にありともしるべきに
かたはる世にありともしるべきに
とよまじし世にありともしるべきに

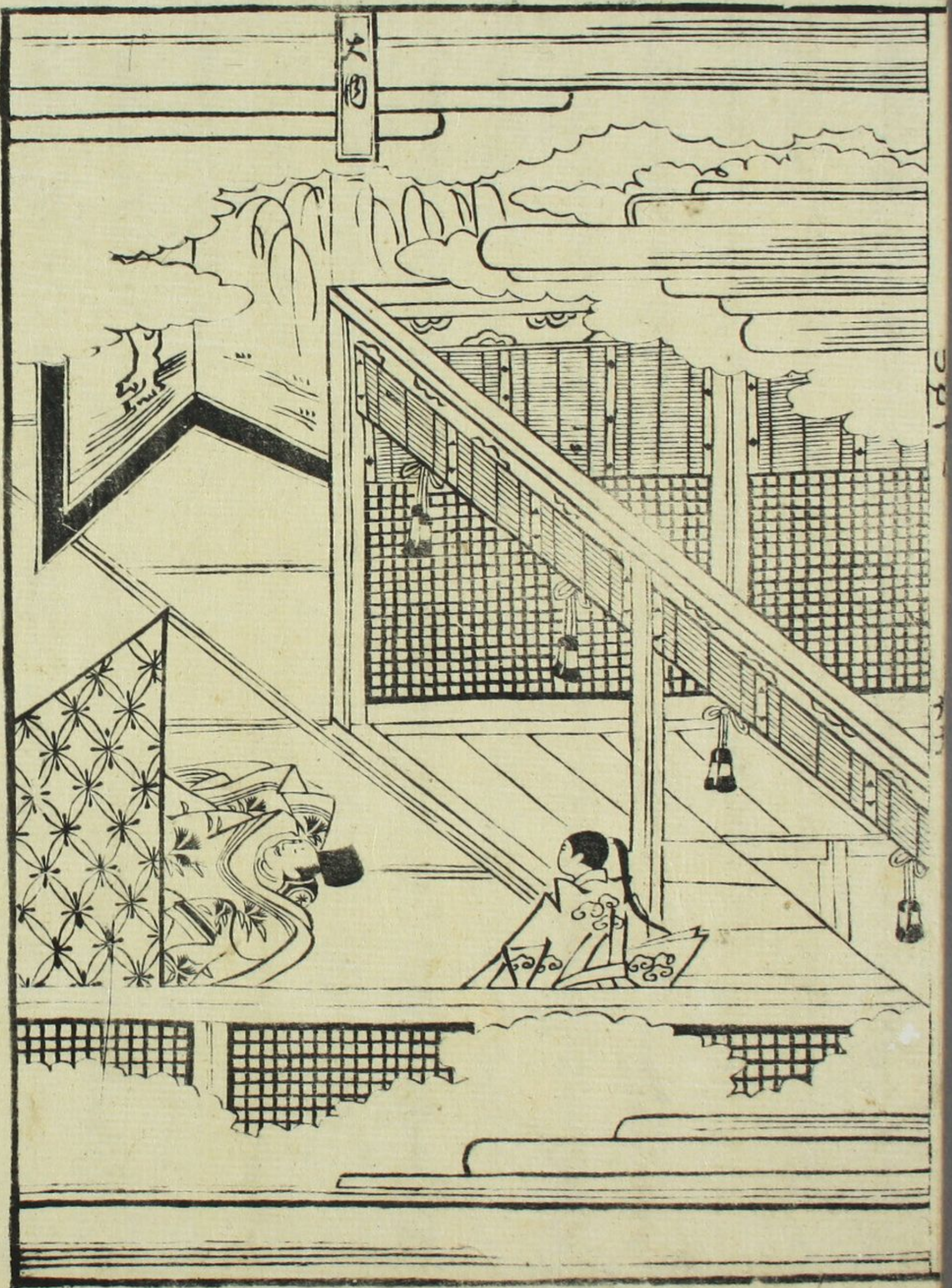
わづらひぬれば後世に名を留めざらん

わづらひぬれば後世に名を留めざらん
のちの世にありともしるべきに
かたはる世にありともしるべきに
とよまじし世にありともしるべきに

わづらひぬれば後世に名を留めざらん

わづらひぬれば後世に名を留めざらん
のちの世にありともしるべきに
かたはる世にありともしるべきに
とよまじし世にありともしるべきに

式本不可有之は多本皆裁之不可止



昔は花とぬゑて梅葉もはらぬる先人よもよもすくせん
 昔は花とぬゑるよがいられどひとはあよなりてあゆん
 昔の男はちたきつことおもはれり今
 山は乃かくの玉あよに流ひたけしるひもなれ世あけり
 とくつりやまはるしんもまはる

昔の男はちたきつことおもはれり今
 ひろんがたきつことおもはれり
 昔の男はちたきつことおもはれり今
 ひろんがたきつことおもはれり

昔の男はちたきつことおもはれり今
 ひろんがたきつことおもはれり
 昔の男はちたきつことおもはれり今
 ひろんがたきつことおもはれり
 昔の男はちたきつことおもはれり今
 ひろんがたきつことおもはれり
 昔の男はちたきつことおもはれり今
 ひろんがたきつことおもはれり

等。男。まづ。ひ。こ。を。ち。あ。わ。ぶ。お。り。と。く。れ。だ。
下巻終

近代以降使友為端。本出来未代。今案之。又不用
は物語古人し。説く不同或云在中。おし。自書或梅伴物
等。他。就。皮。ひ。有。書。落。夏。等。上。古。之。人。強。不。為。其。他
之。只。可。航。詞。花。云。是。不。已。
戸部尚書 在判

右書本者。為定家郷白筆。 林葉集抄。本之。随有
録中。出。為。所。定。本。不。違。一。字。一。點。令。透。字。透。并。校。詔
雖。然。尊。莫。之。誤。我。雜。遊。之。也。于。時。長。祿。才。二。曆。仲
陽。初。二。位。也。)

寛文二年 仲春下旬 同板



尾陽東壁堂製本畧目録

和書之部	萬葉集畧解	三	伊勢物語	二
古事記傳	古今集遠鏡	六	玉勝間	十五
曆朝録詞解	後撰集新抄	六	玉くしり	一
神代正語	同別記	一	酒まみの鏡	二
神壽後釋	新古今集抄	五	江戸職人哥合	二
直毘靈	美濃の家苞	五	御遷幸長哥	一
萬我の比禮	同折添	三	八日坊日記	一
葛花	尾張の家法と	九	地名字音轉用例	一
三大考	源氏物語手枕	一	天祖都城辨	一
冠位通考	三代調類題	六	和歌五百題	二

經書之部	羣書治要	四書集註道春点	同上紙	同片假名附	文選李善註	毛詩國字辨	孝經鄭註	同指解	服膺孝語	國語定本	莊子因
	羣	十	十	四	十	十	一	一	一	六	六
明李遺聞	牧民忠告解	女のまゝ	傳子	常語藪	物數稱謂	律數揚權	介翁茶史	六諭衍義大意抄		詩集之部	三野風雅
四	一	一	一	二	一	二	二	一			五
誹書之部	批把園發句集	同後編	同類題發句集	同三月月集	同麻苳集	同雀芝集	同五七集	同鳶の眼	同瓢日記	同菴の犬	同法々花經
	二	二	二	一	一	一	五	一	一	一	一

日一

劉向說苑	同考	同參註	同上紙	同列仙傳	韓文起	今世說	世說音釋	左傳蒙求	星渚堂對問	大學參解	論語參解
五	一	六	十	一	十	一	五	二	一	一	五
暢園詠物詩	日下新詠	晞髮偶詠	畸人詠	先友詩抄	寒林刪餘	金山稿	宋詩合辟	清百家絕句	蒙求標題詠	金城白湯集	日本詠物詩
一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	三
同隨筆	同七部集 <small>小本</small>	同二編	同三編	同四編	同五編	也有翁鷄衣 <small>合本</small>	同前編	同後編	同續編	同拾遺	誹諧百人一首
一	二	二	二	二	二	四	三	三	三	三	一

手本物之部	獲山詩哥帖	正面摺之部
長雄書札集	同乞巧帖	王由敢寸珍孝經
長松貴札帖	同年中帖	漢魏隸書帖
空洞書翰	同尺一集	九疑山碑
大橋遺帖	同千字文	郭有道碑
同改年帖	同書通案文	義之周府君碑
同今川狀	同書札法帖	李邕沙羅樹碑
同池凍帖	同嵯峨名所	渤海藏真帖
同書用集	同四季お文	東坡自我帖
同當用集	同四季文集	同大江帖
同書札集	同江戸川用文	同歸去來詩帖
同新消息	同筆用集	董其昌天馬賦

同初學手本	同私用集	同衆鳥帖
同か手本	同清風帖	同秣陵帖
同庭訓往来	二節詩哥撒英	道風草書帖
同風月往来	定家朗詠	信海三十六歌仙
同明衡往来	行成朗詠	陋室銘
同商賣往来	琴曲桃の宴	
同江戸往来	箏曲大意抄	草木性譜
同江戸名所	同二輪入	草木有毒圖說
御家書札文海		立花當用集
同當時用文章	武家俗説弁	諸禮大學
同永代用文章		同上紙
同早速千字文	神術極秘卷	十躰千字文

石刻法帖之部	夫子廟堂碑	一	北齋漫画	一	金氏画譜	一
	朱子風雪帖	一	北齋画譜	三	神事行燈	一
	宋七君子法帖	一	同上紙	一	初學画手本	一
	歐陽詢九成宮	一	一筆画譜	一	福善齋画譜	五
	子昂要宦帖	一	西筆画譜	一	武勇魁圖會	一
	同羊公帖	一	同上紙	一	同二編	一
	徂來大曆帖	一	英勇画譜	一	算法之部	
	廣澤樂得帖	一	道中画譜	一	本朝算鑑	三
	米元章天馬賦	一	浮世画譜	一	開式新法	二
			同上紙	一	玉積通考	三
			同二編	一	點竄指南錄	三

繪本之部	同上紙	一	同二編	三
繪本新山科	珖林漫画	一	同三編	三
同庭訓徃來	蕙齋鹿画	一	同四編	三
同女今川	同二編	一	同五編	三
同彩色入	同三編	一	周髀算經圖解	五
同大江山	同四編	一	同國字解	二
同彩色入	同五編	一	算法工夫之錦	三
同曾我物語	北溪漫画	一	同發隱錄	一
同彩色入	北雲漫画	一	開運かき記	一
同咲分勇者	同上紙	一	萬室大通考	一
同彩色入	文鳳鹿画	一	八木龍の卷	一
	同上紙	一		

字引節用之部	將碁之部	百人首之部
滿字節用錦字選	將碁道標	棲鳳百人
同中紙	同觀手	同上紙
同上紙	同金襖	蓬萊百人
早字節用集	同鷲爪	同上紙
同上紙	同定跡	吾妻百人
同大全	同連珠	同上紙
同上紙	同名家友	錦葉百人
同真字附	同古今集	同上紙
同上紙	同相掛集	麗玉百人
四聲節用集	同指南車	同上紙
同上紙	同百番笈	今樣百人

手紙早引集	同自在	同上紙
永樂古狀揃	渡世肝要記	女今川貞操鑑
同上紙	同二編	同上紙
同假名附	碁經之部	
同上紙	碁經奕範	東穗錄
初學古狀揃	同奕筌	同二編
同上紙	碁立手談	彼此合府
同假名附		延壽養生談
同上紙	大日本國郡全圖	養生要論

東都
書物問屋

尾州名古屋本町通七丁目
江戸日本橋通本銀町二丁目
濃州大垣本町

永樂屋東四郎
同 出店
同 出店

